



2月15日21時

日の入りが少し遅くなりました。今頃の一番星はシリウスです。全天で1番明るく見えるだけでなく、姫路から肉眼で見える最も近い恒星です（距離8.6光年）。暗くなると冬の星が見やすくなります。3つの1等星、おおぐま座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、オリオン座のベテルギウスを結びと冬の大三角ができます。このほかに、オリオン座の2つ目の1等星リゲル、おうし座のアルデバラン、ぎよしゃ座のカペラ、ふたご座のポルックスを合わせて、冬の六角形（または冬のダイヤモンド）が描けます。南側の低空にはカノープスがあります。全天でシリウスの次に明るい恒星ですが、地球大気の影響で暗く赤みがかって見えます。中国では南極老人星といい、見ると寿命が延びるとされます。南側の水平線・地平線が見渡せる場所で探して見ましょう。

東の空にはしし座が見えます。胸に輝くレグルスは（小さな王様）は、1等星の中で最も暗いことからついた名前です。北東には北斗七星が見えます。ひしゃくの先の2つを線で結んで伸ばした先に、北極星が見つかります。

西の空にはまだ火星が見えます。大接近の頃と比べるとだいぶ暗くなりましたが、明るい星のない秋の星座を背景に目立ちます。